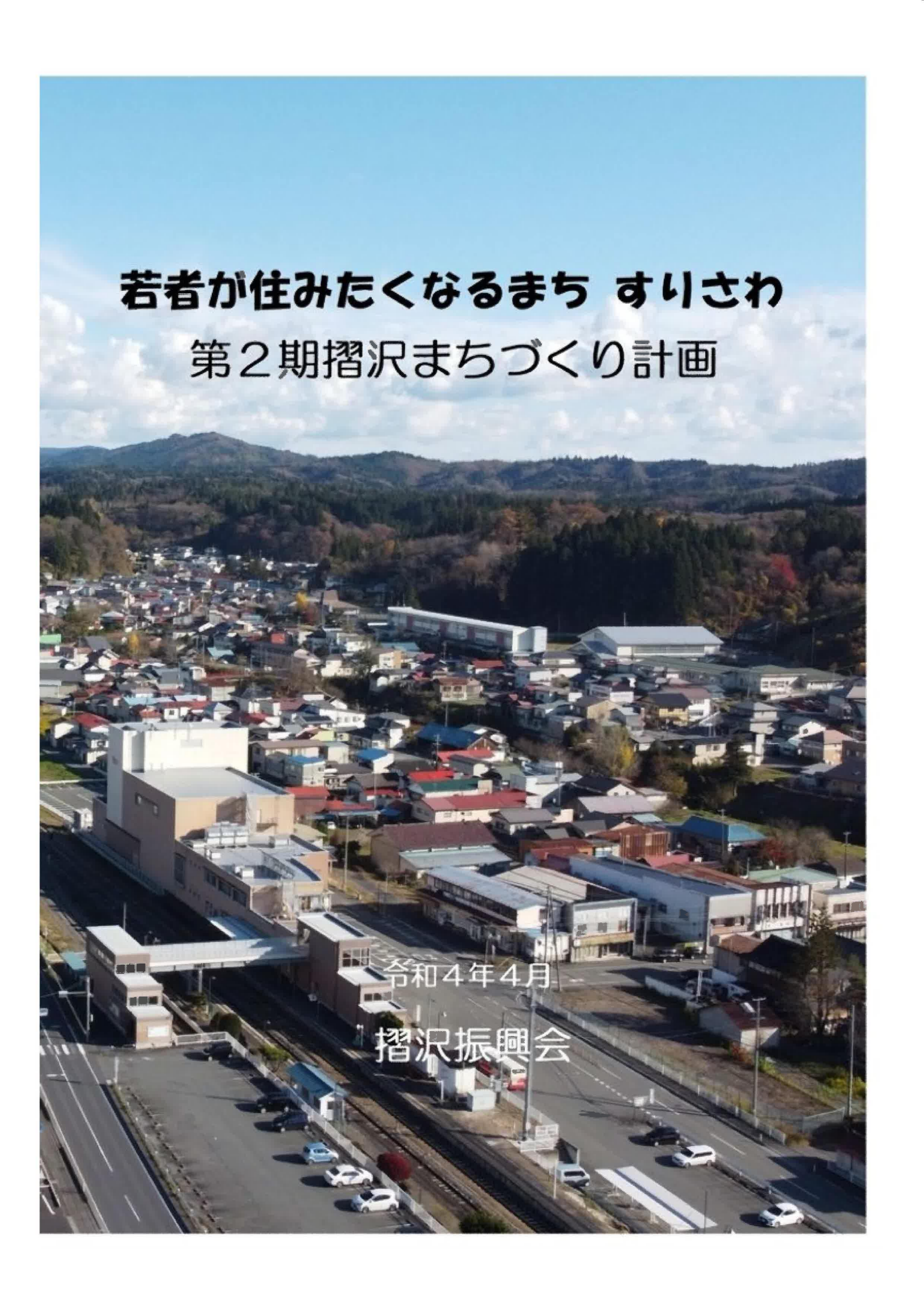


An aerial photograph of a town, likely Sakurazaki, with a mix of residential and commercial buildings. In the foreground, there's a large parking lot with several cars and a building complex. The town extends towards a range of mountains in the background under a blue sky with scattered clouds.

若者が住みたくなるまち すいさわ 第2期摺沢まちづくり計画

令和4年4月

摺沢振興会

あいさつ

摺沢振興会長 小原雪男

本計画は平成29年3月に策定しました「摺沢まちづくり計画」が策定後5年を経過したことによって、その計画の見直しと再検討を図りながらまとめたものです。

「摺沢まちづくり計画」は、多くの地区民のご意見を伺い、委員の皆様の積極的な討議によってつくられ、実施に移されました。しかし令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ほとんど活動が出来ない状況に陥ってしまいました。そのような中で、今後の方向性を検討するため、理事の皆様にご尽力をいただき、町づくり計画の見直しを進めてまいりました。その検討途中で地区民の皆様にもご意見を頂きながら、まとめていただきましたのが今回の計画書です。大本は前回の町づくり計画書を基本としながらも、事業の追加や削除によって、さらに町づくりの大目標「多くの若者が住みたくなるまちを創る」に近づく事業展開ができるよう図ったものです。

今後は老若男女みんなで目的の共有と具体的な取り組み実践にご協力をお願いいたします。

目 次

1. 計画策定の考え方	1
2. 計画期間	1
3. 将来像	1
(1) 大目的	
(2) 中目的	
4. 現状分析と取組事項	2
(1) 中目的1 郷土愛を育てていく	
(2) 中目的2 みんなが気軽に集まることのできる場所を整備していく	
(3) 中目的3 ベッドタウンの役割も担うまちをつくる	
(4) 中目的4 安心・安全なまちをつくる	
(5) その他の事項	
5. 推進方策	5
6. 付帯資料	5

1. 計画策定の考え方

前期計画を策定の際、振興会役員をはじめ地区の皆さんとともに、現状と課題を認識し、皆さんで知恵を出し合い「摺沢まちづくり計画」を策定しました。

その後、この計画に基づいて事業を実施してきましたが、高齢化社会の進展とともに人口減少が進み、さらには新型コロナウイルスが全国的にまん延したことなどもあり、生活様式が大きく変化してきました。

このようなことから、前計画の策定から5年が経過し、計画期間が終了となることから、改めて計画の見直しを行い、新たな計画の策定を行うものです。

また、事業を検討する際には、

- ・自分たちでできる事業を考え絞り込む（他力本願にならない）
- ・途中で頓挫しない事業とすること（続けることが大切）
- ・意欲（モチベーション）を保ち続けられるよう成果が見える仕組みとすること（やる気と根気を維持）

などを基本的な考え方としました。

2. 計画期間

この計画は、策定から令和8年度までのおおむね5年間とします。また、計画期間中であっても、状況の変化に応じて随時見直しを行うこともあります。

3. 将来像

(1) 大目的

平成29年に策定した「摺沢まちづくり計画」における次の大目的を踏襲します。

「多くの若者が住みたくなるまちを創る」

(2) 中目的

第2期計画の策定にあたり、前期計画で掲げていた中目的について現状分析を行い、次のとおり中目的を設定します。

中目的1 郷土愛を育てていく

中目的2 みんなが気軽に集まることのできる場所を整備していく

中目的3 ベッドタウンの役割も担うまちをつくる

中目的4 安心・安全なまちをつくる

4. 現状分析と今後の取組事項

今回の計画策定にあたっては、理事を中心に中目的ごとに3グループ（中目的1と2は1グループ）に分かれ現状分析をし、課題を掘り起こし、解決策を検討いたしました。

短期間での検討のため、不十分さも否めませんが、計画を推進していく中で、変更が出てくることもあります。

以下に、目的別の現状、課題及び解決策を記載いたします。なお、事業例示はあくまでも例示であり、今後変更あるいは追加になることもあります。（表中、継は継続事業、新は新規事業）

(1)中目的1 郷土愛を育てていく

(2)中目的2 みんなが気軽に集まることのできる場所を整備していく

現 状		課 題
利便性	・摺沢は、都会。銀行、スーパー、GS、コンビニなどが揃っており、他地区から比べると利便性に優れている。 ・大東町の中では発展している。	○施設・人材の有効活用がされていない。 ・素晴らしい点を子どもたちが分かっていない ・役のなり手が不足している。 ・集まる場所がない。 ・施設の有効活用がされていない。
若者不足	・集落に若い人がいない。（他所で就職し、帰ってこない。） ・就職がないから他所に行く。 ・子どもの数が少ない。	
子どもの自由な場所	・子どもたちが伸び伸び過ごせる場所がない。 ・摺沢児童公園に東屋やベンチがない。（座る場所に困る。急な雨をしのげない。） ・家以外で遊ぶ場所がない。 ・雨の日に遊べるところがない。 ・運動できる場所がない。	
施設の有効活用	・ことぶきカフェの場所が活用されていない。（空いている日に活用されていない。）	
お祭り	・旧摺沢小学校時代に地区にあった太鼓や踊りなどを引き継いでこれなかった。 ・昔の秋祭りの方が賑やかだった。 ・あんどん祭りの法灯式は郷土愛の形成に役立っている。 ・七夕交流会やグルメ祭りなどのイベント等には子どもは行く。	○お祭り、イベントが大人中心 ・お祭りの活用がされていない

意見の場	・子どもたちの声（やってみたいこと等）が聞こえない	○課題解決が遅れている。 ・振興会の職員が少なく、手が回らない。
事業計画	・身近なところに着目した事業計画が立てられていない	
（解決方策） ○市有地の有効活用を考える。 ○公共施設の効果的活用策を考える。 ○子どもが集まる場所を創り出す。 ○若者が活躍できる場を創り出す。 ○振興会の基盤充実について検討する。 ○市民センターの指定管理について検討する。		（事業例示） 継 自分のまちを知る事業 ・ 史跡標柱更新 継 「フリースペース・住民交流の場」創出事業 ・ ことぶきカフェ ・ 映画会 継 若者公社支援事業 ・ SAWAS等 継 先進事例研修 新 （仮称）ひだまりば設置事業 新 青少年を顕彰する事業 新 市民センター指定管理検討事業

(3)中目的3 ベッドタウンの役割も担うまちをつくる

現 状		課 題
家	・家を建てたい若者がいる。 ・空き家が多い。 ・高齢者や独居世帯が多い。	○情報が少ない（見えにくい） ○土地はあるが有効活用できていない。 ○あるものを生かし切れていない。 ○若い働き手の活用ができていない。 ○働く場所の確保ができていない。 ○人が集まるための工夫ができていない。 キーワード：「人」「場所」「モノ」が つなげられていない
土地	・旧農協跡地がそのまま ・耕作放棄地が多い。 ・人が集う場所がない。 ・駅や銀行などインフラはそろっている（ほう）。	
人	・高齢者が増えている。 ・若い人はいる（いないわけではない）	
雇用	・誘致企業では労働力を必要としている。 ・働く場がないわけではない。	
イベント	・コロナで人が集まりづらい ・参加しやすいイベントを企画しても、人が集まらない。	

（解決方策） ○空き家、空き地、耕作放棄地（遊休農地）の情報を提供する。 ○働く場所の情報を提供する。 ○摺沢の人財を発掘し、活用する。	（事業例示） 継 空き地・空き家・耕作放棄地活用（情報発信）事業 継 おはよう朝市事業 新 摺沢の達人を探そう！事業
--	--

（4）中目的4 安心・安全なまちをつくる

現 状		課 題
医療・福祉	・近場での選択肢が少ない ・高齢化で、一人住まいの方の負担が増えている。	○一人住まいの方の生活の安心が足りない。 ○人が集まらない。 ○人との交流が広がっていない。
地域活動	・後継者、人手不足で自治会・団体の活動や継続が難しくなっている。 ・集会など、参加者が少ない。 ・若い人たちに参加して欲しい。 ・コロナでの活動制限で集まりが減り、人とのふれあいが減っている。 ・後継者がいない。	
交 流	・コロナ禍で集まりやイベントが制限され交流（人とのふれあい）が少ない。 ・子どもが少ない、交流が少なくなっている。 ・お年寄りも話をしたり、交流を望んでいる。 ・子ども達（高校生など）の挨拶など良い部分は残したい。	
（解決方策） ○ご近所、近隣のパートナーをつくる。 ○世代間の距離を縮めるイベントの開催 ○地域情報などの発信を強化する。		（事業例示） 継 「お困りお助け隊」検討事業 継 みんなで川をきれいにしよう！事業 継 イベントカレンダー発行事業 継 会報「ひだまり」発行事業 継 「だいとうメール」推進事業 新 ちょこっとお助けボランティア事業

(5) その他

この計画策定にあたり、ワークショップの開催のほかには現状、課題及び解決策などについて地区民の皆様より意見を募集しました。

その中で、摺沢振興会の目的達成及び地域課題の解決に向けて、一関市及び岩手県等の強力な支援を頂ければならない事業が出てきましたので、以下のとおり掲載します。

事業主体	内 容
岩手県	主要地方道一関大東線整備事業（生出バイパス整備事業） 一級河川曾慶川護岸整備事業
一関市	市道金取流矢線未改良区間整備事業 （仮称）摺沢こども園整備事業 摺沢児童遊園地整備事業 市営バスの存続と路線の拡大

5. 推進方策

この計画の実施は、地域協働体である摺沢振興会が、自らの地域を自らの手で守りつないでいくという基本的な姿勢に基づき実施するものです。

このため、事業の実施にあたっては、構成団体が業務を分かち合いつつ、協力し合って実施するものとします。各団体でできることは団体で、できないことは振興会が中心となって取り組むというスタンスです。

また、どうしても自分たちでできないことについては行政やその他の機関などに実施や協力をお願いしていきます。

6. 付帯資料

今回の計画策定にあたり、理事の皆さんを中心に開いたワークショップの中で多くの意見やアイデアを出していただきましたが、この計画書にその内容をすべて記載することができませんでした。

ワークショップの経過については摺沢振興会（摺沢市民センター内）に資料がありますので、ご覧になりたい方はお申し出ください。

